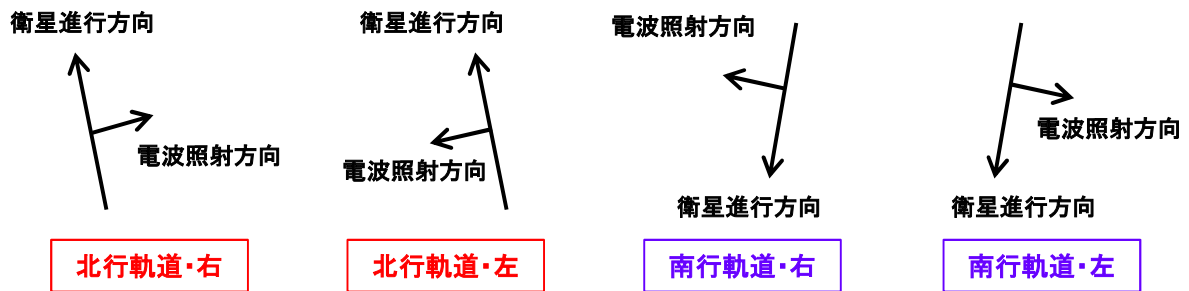


衛星進行方向と電波照射方向による見え方の違い

干渉SARが計測しているのは、SARのアンテナと地表を結ぶ直線に沿った地表の変動量の分布です。

「だいち2号」によるSARでは、地表からおよそ630km上空を飛行する衛星の進行方向に対して、ななめ下に電波を照射して観測しています。衛星進行方向は「北行軌道」「南行軌道」、電波照射方向は衛星進行方向に対して「左」「右」があり、4パターンの観測方法があります。



地表の変動は3次元(東西、南北、上下)ですが、1回のSAR観測で得られる変動は、電波照射方向の1方向しかありません。つまり、1つのSAR干渉画像からは、地表が衛星に対して近づく、遠さがるといった1方向の変動量のみが判ります。そのため、観測方向によって、同じ変動でも違った色の変化が見えることがあります。

